博士前期課程（修士） / 実践看護学領域 / 成人看護学分野
科目コード：240003-1

がん看護学演習Ⅰ Oncology Nursing Ⅰ

担当教員	牧野 智恵、北山 幸枝、坂下 智珠子、松井 優子、北本 順子、村上 真由美				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・演習
必修・選択	選択	時間数	30		
Keywords	薬物療法、症状マネージメント				
学習目的・目標	学習目的： がん薬物療法と療養過程のマネージメントについて学び、Evidence based practice のために必要な知識を習得する。 学習目標： １．がん薬物療法の効果と有害事象のメカニズムについて理解できる。 ２．がん薬物療法中の患者へのEvidence based practice のために事例を通して、ケアとキュアの融合ができる。 ３．がん薬物療法中の患者に生じる粘膜障害の支援を理解する。				

授業計画・内容

回	内容	授業方法	担当
1-2	がん薬物療法と予防メカニズム	講義・討議	牧野
3-4	消化器・呼吸器がん薬物療法と療養過程のマネージメント 大腸がん・胃がん・肺がん患者のEvidence based practiceのための事例分析	講義・討議	坂下・牧野
5-6	造血器腫瘍薬物療法（造血器幹細胞移植を含む）と療養過程のマネージメント	講義・討議	松井・牧野
7-8	乳がん・生殖器系がん薬物療法と療養過程のマネージメント	講義・討議	村上・牧野
9-10	がん化学療法を受ける患者への粘膜および創の管理 ・薬物療法における粘膜障害の特徴およびそのケアについて	討議	北山・牧野
10-13	化学療法を受けているがん患者の経済上の問題、および医療・福祉施策について	講義	北本・牧野
14-15	がん化学療法を受ける患者へのマネージメント	討議	牧野

教科書	
参考図書等	・鈴木志津枝、小松浩子 監訳 「がん看護PEP リソース」医学書院、2013年 ・西条長廣監修；EBM がん化学療法・分子標的治療法、中外医学社、2015年 ・小島美佐子・佐藤麗子監訳；がん看護 コアカリキュラム、医学書院、2008年
評価指標	各セッションの準備状況と学習への取り組み(40%)、事例分析時の発表・質疑応答内容(40%)、レポート(20%)によって評価する。

関連科目	がん看護学演習Ⅱ
教員から学生へのメッセージ	